

# 広域・点在化する上下水道関連施設を遠隔管理・監視

中小事業体では市町村合併等もあり、上下水道関連施設がより広域・点在化する傾向にある。また、職員数の減少やベテラン職員の退職などのマンパワー不足を踏まえ、効率的な施設の運転・維持管理が課題となっている。近年ではタブレット端末やパソコン、携帯電話などを用いて、施設を遠隔管理・監視するシステムを導入する動きが広がっている。本紙では福島県南会津町、鹿児島県霧島市をルビシ、これらの取り組みを紹介した。

## 福島県南会津町



星係長

福島県南会津町は、県南西部に位置しており、平成18年3月20日に田島町・鶴石村・伊南村・南郷村が合併して誕生した。総面積が886.47平方キロと広大で、町域一周が約90キロのループ状幹線道路で結ばれている。山間地で起伏がある地形となっており、水道施設も点在しているため、日常の維持管理も大変な業務量となっている。事業は上下水道事業、17簡易水道事業となっており、旧伊南村で平成25年に

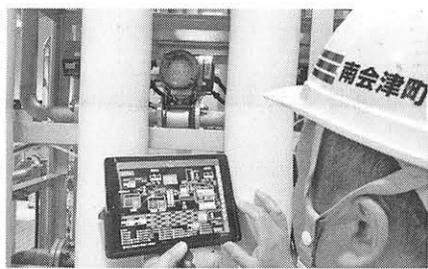
小松電機産業の監視システム「やくも水神」を導入した。同町の星係長は「伊南簡易水道の中央操作盤の更新がきっかけで、遠隔監視システムは合併前から各町で採用していましたが、導入から年数が経過しており、維持管理にも多額の費用がかかる上に、更新費用も高額であったため、頭を悩ましていた。施設管理を効率化するための一方策として、クラウドによる遠隔監視システムがあることを知り、メーカー各社からヒアリングを行いました。その結果、初期費用が安く、維持管理費もこれらと比べて低く抑えら

れることが分かり、導入を決めました」と説明する。同町では平成20年度に簡易水道を上下水道事業に統合する事業を進めてきた。平成26年度からは簡易水道統合の補助事業として監視システムを導入している。「26年度はもともと遠隔監視を行っていた22カ所の施設をクラウド化しました。翌年には計装設備すらない施設に監視装置を新設しました。クラウドを活用して監視したいもの、必要がないものを取捨選択し、できるだけ費用を抑え、効果を最大限発揮できるように努めました。なるべくシンプルで、誰でもわかるようなシステムになるよう心掛けました」と星係長はシステム構築のコンセプトを話

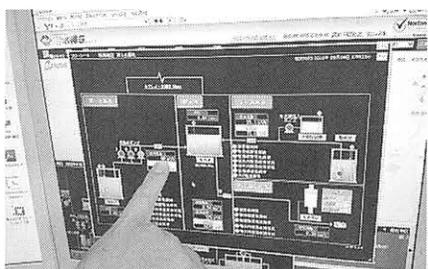
## いつでも監視できる安心感 遠隔操作で薬品注入も

### いつでも監視できる安心感

「これにより、これまで監視装置が設置されていなかった施設も効率的な運転・管理が可能となったという。「配水池の水位トレンドをクラウドにのせて運転を自動化することで、24時間フル稼働していたポンプの稼働率を50%下げることができました。停止時間を設けることで消費電力の低減や動力機器の延命化が可能とし、維持管理の負担を軽減できる。また、薬品の削減を図ることができた(星係長)。「やくも水神」について「工事は、既存の盤に警報装置を設置するだけで監視がはじめるなど、工期が短いのが特長です。導入費用も10分の1に抑えられ、アップテ



遠隔監視システムで効率的な施設管理



分かりやすいフロー図で技術継承にも活用

た」と続けた。同町では管末での残留塩素の遠隔監視制御を行う水質管理システムの開発だけでなく、それぞれの配水池に小松電機産業に依頼し、平成26年度に3カ所に設置した。「薬品注入量の操作がスマートフォンでできるようになりました。これまでのように1、2分の注入作業のために1日を往復するようには作業はなくなり業務の効率化が実現しました。また、残留塩素濃度や薬品量が確認できたため、今までは何となく不安で巡回に行っていたが、結果として現地へ行く回数を減らすことができた。当町は山間地です。冬期の雪深い中、スノーシューを履いて点検に行くということがなくなりましたね。当町は井戸水を塩素滅菌して供給する場所が多いのですが、季節などによって注水量を変えられるようになり、

「やくも水神」について「工事は、既存の盤に警報装置を設置するだけで監視がはじめるなど、工期が短いのが特長です。導入費用も10分の1に抑えられ、アップテ

「やくも水神」について「工事は、既存の盤に警報装置を設置するだけで監視がはじめるなど、工期が短いのが特長です。導入費用も10分の1に抑えられ、アップテ

「やくも水神」について「工事は、既存の盤に警報装置を設置するだけで監視がはじめるなど、工期が短いのが特長です。導入費用も10分の1に抑えられ、アップテ

「やくも水神」について「工事は、既存の盤に警報装置を設置するだけで監視がはじめるなど、工期が短いのが特長です。導入費用も10分の1に抑えられ、アップテ